



乾期のエイヤワディー地域では灌漑水が確保できない中・北部では緑豆やケツルアツキを栽培し、灌漑可能な中・南部では水稲を栽培しています。一方、沿岸部では灌漑水が確保できず、塩害の影響で乾いてひび割れた休耕田が広がっています。しかし、農家は休んでいるわけではありません。僅かでも水が得られる場所では、トウガラシやオクラが細々と栽培されています。プロジェクトでは、収穫後の作業が種子の品質を左右する重要な工程であることから、引き続きモニタリング等を実施しています。

CS生産モニタリング：シュエボー県での種子乾燥・調整状況のモニタリングを実施しました。種子品質を左右する収穫後技術は次回の研修でも重要なトピックとして取り上げます。種子検査ラボでの生産物審査のピークは1月～2月。今年からDOA種子課が保証種子票（通称、イエロータグ）を発行・配布することとなりました。（写真：左から、シュエボー県での農家の種子乾燥状況、種子ラボでの検査サンプル登録作業、イエロータグの発行作業）



精米デモンストレーション：エイヤワディー地域に引き続きシュエボー県にて精米業者の協力を得て、CSによる収益向上を実証することを目的としてCSから栽培された籼米を使った精米デモンストレーションを行いました。今回は籼米6.7トンから6.1トンの完全米（通常は5トン程度）が精米され赤米も殆ど無く、精米歩留の高さに関係者は改めてコメ生産におけるCSの重要性を認識しました。（写真：左から、シュエボー精米所にて意見交換、精米デモンストレーション、精米の整粒歩合計算）



種子選別機の引渡し式、その他：先月に据付けを完了した種子選別機3台の引渡し式を、農業畜産灌漑省局次長及びJICA事務所次長臨席の下、パテイン農業局事務所にて行いました。これら機材の有効活用により、CSの一層の品質向上が期待されます。また、ミャンマー米連盟及び農業局が主催する種子フェアを夫々視察しました。コメ、野菜、豆等多くの民間種子会社が出展して、種子への関心の高さが窺えました（写真：左から、引渡し式後に種子調整機を視察、マンダレー種子フェア、ネピドー種子フェア）



エイヤワディー地域では豆類の収穫が行われ、シュエボー県ではそろそろ乾期作の準備が始まります。日差しが益々強くなってきました。HP (<https://www.jica.go.jp/project/myanmar/029/index.html>) も開設しましたのでご覧ください。（編集委）